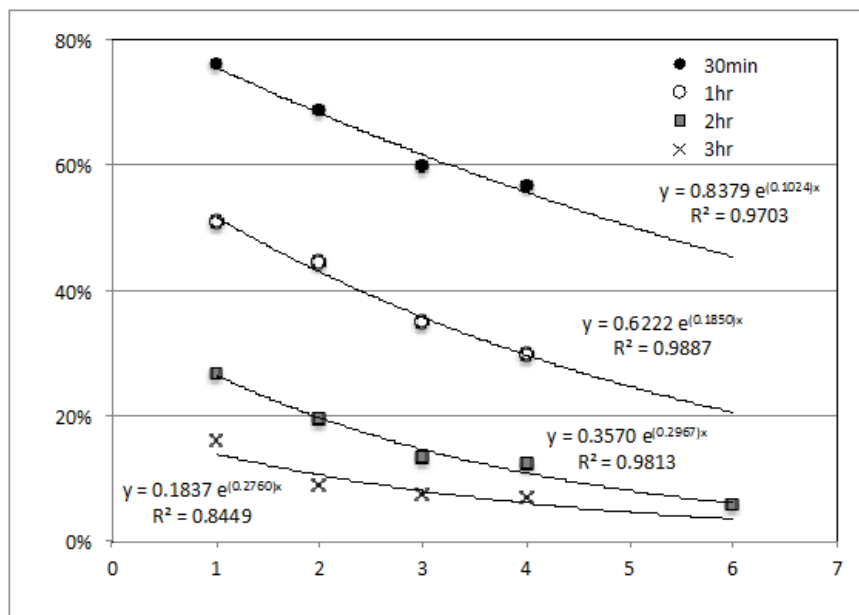


停電の受容率調査結果

自然エネルギーの導入が進むことを前提としたときに、電力の質の低下がどの程度許容されるかを把握するために、受け入れられる停電の時間と回数に関する全国規模のアンケート調査を実施しました（回答数：1,668）。結果は下図のように停電の時間が長くなるほど、また回数が増加するほど受入率は低下し。受入率と時間、回数には高い負相関が認められました。

さらに、電気料削減によりどの程度の受入率向上が期待できるかを、電気代削減額の選好が正規分布に従うと仮定し、累積確率密度関数を用いて求めて推計しました。その結果、年電気代を12.1千円すれば、1時間・年2回の停電を過半数が受け入れると考えられました。



停電時間別回数と受入率（横軸：年間回数，縦軸：受入率）

このような検討を通して、「セル」、[セル群]の電力システムデザインにおいて予備力を電気料削減という需要対応により小さくする方策が重要なオプションになり得ると考えられました。